

1 研究主題

一人一人が主体的に学び、学んだことを豊かに表現できる子供の育成
～個別最適・協働的な学びにおける効果的なICT機器の活用を通して～

2 全体会

全体会では、研修係から研究の経緯等について発表がありました。その中で、研究主題設定の背景としては、①児童質問紙の結果から、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から見通しをもって調べたり考えたりすること」や、「友達との対話を通して新たな考えを生み出したり自分の考えを深め・広げたりすること」に課題が見られたことを受けて、他者と協働して主体的に学ぶ力や態度を育成する必要があると考えたこと、②児童が、「タブレットを使うことによって、学習内容の理解が更に深まった。」という実感をもてるよう、個別最適・協働的な学びの一体的な充実を図る効果的なICT機器の活用の在り方を研究する必要があったことなどが述べられました。



【研修係による研究発表】

帖佐小学校の研究内容は、概ね次のとおりです。

- 個別最適・協働的な学びの中で、ICT機器を効果的に活用するための工夫
 - ・ ICT機器の特性の整理
 - ・ ICT機器リテラシーの向上を図る工夫
- 学習内容や学習方法を自己選択させる工夫
 - ・ 単元の学習計画表の工夫
 - ・ 振り返りのさせ方の工夫
 - ・ 学習内容や学習方法を自己選択できる学習の設定

二年間の研究の成果としては、①ICT機器の機能的特性を整理したことにより、授業をデザインする際に、個別最適な学び・協働的な学びの場面に最適なICT機器の機能を選択できるようになったこと、②ICT機器の活用により、複数の学習内容や学習方法の提供や、効率的・効果的な学習の振り返りが可能になったこと、③児童が学ぶ内容や方法を自己選択して調べ、まとめたことを意欲的に表現する姿が見られるようになったこと、などが紹介されました。

今後の研究の方向性として、「児童が自ら学ぶ内容や方法、順序等を決めて、自分で学習を進める『自由進度学習』の研究も深めていきたい。」と展望が語られました。

3 公開授業

(1) 第3学年 国語科 単元名 「わたしたちの学校じまん」

本単元は、「相手を意識して理由や事例などを挙げながら話の構成を考えたり、話す際に話し方を工夫しようとする態度を身に付けさせたい。」という願いをもって設計されました。単元末学習課題を「3年生の学習を、2年生が楽しみに思えるようにつたえよう。」とし、児童が相手意識をもって学習を進められるようにしま

した。また、個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実を図るために、児童が、自分の学習ログから伝えたい内容を検索したり、児童が作成した発表カードを共有して、途中参照したりできるように工夫しました。公開授業では、児童が、発表の様子をタブレットで撮影し、自分たちで考えた「発表の仕方のポイント」に沿って相互評価をした後、更によりよい発表にするための工夫について意見交換を行っていました。



【第3学年の授業の様子】

(2) 第5学年 社会科 小单元名「自然災害とともに生きる」

本小单元は、「様々な事前災害が繰り返し発生する国土の様子や、その被害を最小限に食い止めるために、国や都道府県などが連携して計画的な公共事業を進めていることをとらえさせたり、国土に暮らす一人ひとりの備えの大切さに気付かせたりしたい。」という願いをもって設計されました。



【第5学年の授業の様子】

公開授業は、「国や都道府県は、様々な災害からくらしを守るためにどのような対策を進めているのだろうか。」の学習課題のもとで行われました。児童は、自分の興味・関心から選択した資料で調べたことを共有し、情報交換や質疑応答を行った後、思考補助ツールで考えを整理しながらまとめていました。授業者は、学びを児童に委ね、共有ノートに表示される児童一人一人の学習状況をモニタリングしながら、必要に応じて個別の支援を行っていました。

帖佐小学校の特色ある研究 ～ICT機器の特性の整理～

帖佐小では、二年間の研究で取り組んだ豊富な実践事例を基に、ICT機器を効果的に活用するための「活用の視点」と「考えられる活動や、活動によって期待される効果」についてまとめ、授業をデザインする際に活用しています。

活用の視点	考えられる活動や、活動によって期待される効果
可視化	<ul style="list-style-type: none"> 全員の考えや意見等を瞬時に見やすくなる。 自他の動きや様子を理解しやすくなる（写真、動画）。
共有化	<ul style="list-style-type: none"> 友達と考えやデータを共有することで、一緒に作成、編集、吟味しやすくなる。
焦点化	<ul style="list-style-type: none"> 資料等を拡大することで、注目させたい部分が見やすくなる。 資料等へ書き込むことで注目させたい部分が明らかになる。
多面化	<ul style="list-style-type: none"> 一つのデータや考えなどにコメントをし合うなど、多様な考え方を把握し、物事を様々な角度から捉えやすくなる。
構造化	<ul style="list-style-type: none"> 考えを比較したり、関連付けたりして、物事の関連性が分かりやすくなる。
個別化	<ul style="list-style-type: none"> 個人の理解度に合わせて電子ドリルの学習内容を選択したり、進度を調整したりすることで、学習内容への理解が深まりやすくなる。 個人の興味や関心に合わせて様々な情報を収集・選択・加工・表現しやすくなる。
ログ化	<ul style="list-style-type: none"> 多様な種類のデータを蓄積し、自分の学習履歴を検索したり、データを取り出し比較したりすることで、自己の考えの変容や変容の要因を振り返りやすくなる。